

様式第4号（第7条関係）

パブリックコメント募集案件概要書

【案件名：第3次つくば市環境基本計画】

つくば市生活環境部環境政策課

○ 計画等を必要とする背景・提案に至るまでの経緯

本計画は、環境基本条例の前文や基本理念の実現に向けて、環境行政を総合的かつ計画的に推進するための計画で、平成22年度に策定された第2次つくば市環境基本計画の後継計画として策定します。

○ 他の自治体の類似する計画等の事例

第2次土浦市環境基本計画、第2次水戸市環境基本計画など事例多数

○ 未来構想における根拠又は位置付け

未来構想の序論には、環境基本条例の理念に基づく環境に配慮したまちづくりを進めることが述べられています。


また、まちづくりの理念には、先人たちから受け継いできた豊かな自然環境の保全をはじめ、環境問題に積極的に対応し、暮らしやすいまちを次の世代へとつないでいくことを目指すことが述べられています。

○ 関係法令、条例等

つくば市環境基本条例

○ 計画等の実施により予測される影響及び効果（算出できるものはコストを含む。）

地球温暖化対策や生物多様性、廃棄物、生活環境を始めとしたつくば市が取り組むべき環境施策について、市民の意見や考え方を反映した上で方向性を定めて、計画的に取り組むことができます。



第3次 つくば市 環境基本計画

令和2年(2020年)4月

概要版

環境基本計画の位置づけ

環境基本計画は、つくば市の環境に関する計画の中で最も上位の計画であり、市の環境施策の基本的な方針を示します。

計画期間

本計画は、2020年4月から2030年3月までの10年間を計画期間とし、計画策定後5年を目途に見直します。

計画策定の考え方

本市には、筑波山や牛久沼、里地里山などの豊かな自然環境があります。また、研究学園都市の特性として最先端の知見に触れる機会に恵まれています。このようなつくば市の強みを活かして、環境保全の施策を進めていきます。

さらに、近年、世界中で重視されている「持続可能な開発目標（SDGs）」の達成に向け、つくば市においても幅広く施策を展開していきます。また、国内外で関心の高まっている気候変動対策や生物多様性に関する施策を重点的に推進します。

目指すべき将来像

豊かなつくばの恵みを未来につなぐ 持続可能都市
～つくばの強みを活かして、多様な主体の協働でSDGsの達成に貢献する～



将来像を実現するための施策体系

基本目標 1

低炭素モデル都市を形成して
気候変動に対処する

施策の柱

- 低炭素社会の実現に向けた様々な主体の取組の促進
- まち・建物の低炭素化
- 低炭素な交通システムの実現
- 気候変動への適応

基本目標 2

豊かな自然環境・生物多様性を
未来へつなぐ

施策の柱

- 生き物・生態系の保全
- 里地里山景観の保全
- 都市の緑を増やし、質を高める
- 自然とふれあう

基本目標 3

資源を賢く使う循環型社会に
近づく

施策の柱

- 3 Rの推進
- 廃棄物の適正処理

基本目標 4

安心して快適な生活環境で暮らす

施策の柱

- 清潔で静かな生活環境の確保
- 安全な生活環境の確保

基本目標 5

市民一人ひとりが環境を考え、
行動する

施策の柱

- 持続可能なライフスタイルの推進
- 将来を担う子どもたちへの環境教育
- 環境と経済の好循環

重点施策

重点 施策

- 1 マルチベネフィットな低炭素化プロジェクトの推進
- 2 生物多様性つくば戦略（仮称）の策定
- 3 持続可能なライフスタイルの推進

基本目標 1

低炭素モデル都市を形成して気候変動に対処する

将来像

- つくば市ならではの強みをいかした気候変動対策が進み、先進的な低炭素モデル都市となっています。
- 省エネや再生可能エネルギーの導入が推進され、まちや建物の低炭素化が実現しています。
- 自家用車に頼らなくても生活できるまちに近づいています。
- 異常気象や災害に対して、強靱で柔軟性のあるまち（レジリエンスのあるまち）となっています。

評価指標

評価指標	現状値	目標（2030年度）
温室効果ガス排出量	2,053 千 t-CO ₂ (2013 年度)	1,519 千 t-CO ₂ (2013 年度比 26%減)
低炭素住宅の新規入居戸数*	27 戸 (2018 年度)	605 戸（累計）
市民満足度調査「低炭素社会の推進」の満足度	19.7% (2017 年度)	30.0%

*つくば市低炭素（建物・街区）ガイドラインで認定する戸建住宅でエネルギー消費量や断熱性能に優れた住宅

低炭素社会の実現に向けた様々な主体の取組の促進

施策

- 低炭素化に寄与する取組や研究を推進するため、大学・研究機関、事業者との連携を強化します。
- 市民による省エネを促進するため、普及啓発プログラムなどを実施します。
- マルチベネフィットな低炭素プロジェクトを検討・推進します。

重点施策 1

まち・建物の低炭素化

施策

- 省エネ性能向上や再エネ導入を推進して、建物の低炭素化を進めます。
- 先導的かつ優れた低炭素街区を普及し、市内の面的な低炭素化を進めます。
- 公共施設の低炭素化を推進します。



低炭素な交通システムの実現

施策

- コミュニティバスやデマンド型交通など公共交通の充実を図ります。
- 自転車が安全・快適に利用できる空間を整備し、自転車利用を推進します。
- 公用車の低公害化、低炭素自動車への補助、エコドライブの普及啓発を行い、自動車利用を低炭素化します。



気候変動への適応

施策

- 異常気象や風水害に対する備えについて啓発し、その影響を低減します。
- 気象情報や「暑さ指数」、熱中症の予防・対処法など情報提供を行います。
- 生産者に対して適応方策などを情報提供し、農業への影響低減に努めます。
- 渇水被害を軽減するための事前の備えを促します。

重点施策

1 マルチベネフィットな低炭素化プロジェクトの推進

内容

つくば市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）に基づき、市民や事業者と連携して温室効果ガスの排出削減の取組を進めます。多くの市民や事業者と協働して取組を進めるため、「環境」の観点だけでなく、「経済」や「社会」の観点からもメリットを感じられるマルチベネフィットな施策を実施します。

ロードマップ

2020 年度

マルチベネフィットなプロジェクトの検討・実施・改善を行うとともに、外部委員会における「実行計画（区域施策編）」の進捗管理を行う

2025 年度

「実行計画（区域施策編）」の検証、計画の改訂

2030 年度

改訂された「実行計画（区域施策編）」に基づきマルチベネフィットなプロジェクトを実施

※マルチベネフィット：ここでは、「環境」の観点のみならず、「経済」や「社会」にも効果もあることをいう。

基本目標 2

豊かな自然環境・生物多様性を未来へつなぐ

将来像

- ・筑波山や牛久沼、里地里山などの美しい景観が維持され、在来の多様な生き物が息づいています。多くの人々が自然の恩恵を実感し、つくば市の重要な自然を大切に思いながら生活を送っています。
- ・貴重な自然や緑豊かな街並みが将来にわたり守られるよう、平地林や農地、公園、庭の緑などを守り、育て、ふれあう取組が協働で進んでいます。

評価指標

評価指標	現状値	目標（2030年度）
つくば市の緑地面積	16,200ha (2018年)	現状維持
生物多様性つくば戦略	—	策定（2025年度） 取組の推進

生き物・生態系の保全

施策

- つくば市の生き物の現状を把握します。
- 森林生態系の維持・保全を進めます。
- 水辺に生息・生育する生き物の保全を図ります。
- 在来生態系に悪影響を及ぼす外来種対策を推進します。
- 生物多様性つくば戦略（仮称）を策定します。 **重点施策2**



里地里山景観の保全

施策

- 筑波山やその周辺の乱開発を防止します。
- 筑波山の眺めや牛久沼の水辺などを損なわない景観形成を行います。
- 里地景観の主な要素である優良農地を保全します。また、野生動物と農業の共生を図ります。



都市の緑を増やし、質を高める

施策

- 都市公園の緑や街路樹を適切に管理します。
- 公共施設や研究機関、工業団地などで緑を確保します。
- 市民参加による緑化活動を推進します。
- 開発に伴う緑地減少の抑制に努めます。

自然とふれあう

施策

- 良好な森林や施設の管理を行い、自然への理解を深める機会を増やします。
- 水資源を活用した啓発を推進します。
- 筑波山地域ジオパークのエコツーリズムを推進します。
- 里地里山の魅力を体感する機会を作ります。

重点施策

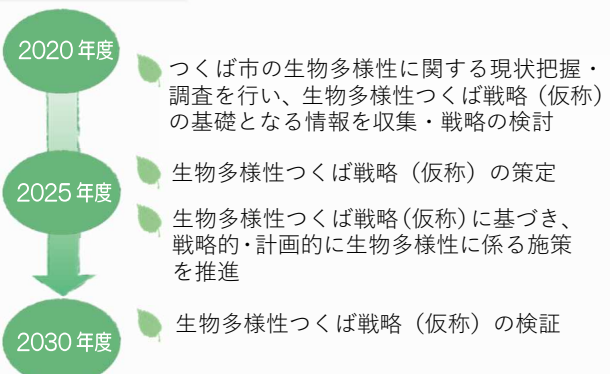
2 生物多様性つくば戦略（仮称）の策定

内容

将来にわたって自然の恵みを享受し、市の生物多様性を保全していくため、生物多様性に関する施策を戦略的かつ計画的に実施するための生物多様性地域戦略を策定します。

戦略の検討に当たっては、つくば市内の生物多様性の現状把握を行うとともに、近隣市町村との協力も模索し、さらに市民の参加を得ながら策定を進めます。

ロードマップ



基本目標 3

資源を賢く使う循環型社会に近づく

将来像

- 地球の資源の有限性を認識し、地域で最適な生産・消費が行われることで、資源の浪費はほとんどなくなっています。
- 資源の浪費がなくなるだけでなく、ごみの発生抑制、再利用、再資源化という3Rを推進することで、“ごみ”という概念がなくなるくらい資源循環される仕組みができています。

評価指標

評価指標	現状値 (2018年度)	目標 (2029年度)
市民一人当たりの生活系ごみ排出量	695 g/人・日	648 g/人・日
市民一人当たりの事業系ごみ排出量	427 g/人・日	393 g/人・日
リサイクル率	20.0%	25.0%

3Rの推進

施策

- 循環型社会形成を進めるため普及啓発を行います。
- 家庭から出るごみの3Rを促進します。
- 事業系ごみの減量化を進めます。
- 生ごみやバイオマスなどの資源の有効活用を推進します。



廃棄物の適正処理

施策

- 一般廃棄物の中間処理や最終処分を適正に行います。
- 産業廃棄物の適正処理に関する普及啓発を行います。
- クリーンセンター（ごみ焼却施設）を安定的に稼働させます。

基本目標 4

安心して快適な生活環境で暮らす

将来像

- 静かで清潔なまちの中で、清々しい空気、安全な水を楽しむ、穏やかな暮らしが営まれています。
- 不法投棄やごみのポイ捨てがなくなり、快適で心地よい生活環境になっています。また、大気汚染や騒音などの公害を予防するため、法令が遵守されます。法令の基準以上に、環境負荷の低減を図る事業者も多くいます。

評価指標

評価指標	現状値 (2018年度)	目標 (2030年度)
市民の環境不満足度	空気のきれいさ：5.8% 水のきれいさ：18.4% 静けさ：13.2% ごみ収集や処理方法：9.5%	現状より改善

清潔で静かな生活環境の確保

施策

- 清潔な生活環境を確保するため、市民・事業者の美化活動を推進します。
- 市内一斉清掃や集積所の設置補助などで、ごみの散乱を防止します。
- 不法投棄や野焼きを防止するため、定期的なパトロールや廃プラスチックの回収事業などを実施します。
- 騒音・振動の防止を図ります。

安全な生活環境の確保

施策

- 公害を防止するため、環境モニタリングや公害防止協定の締結などを進めます。
- 安全な水道水の供給と生活排水による水質汚濁の防止を図ります。
- 環境にやさしい農業生産を推進します。
- 有害化学物質による健康影響を防止するため、市民への情報提供を行います。



基本目標 5

市民一人ひとりが環境を考え、行動する

将来像

- 市民一人ひとりが、環境について楽しく学び、日々の暮らしで持続可能なライフスタイルを実践しています。また、家庭や職場、学校において、つくば市の環境や地球環境について話すのが当たり前になっていて、皆と一緒に創意工夫しながら環境保全に取り組んでいます。
- 子どもへの環境教育も重視されており、子どもたちの環境意識が高まっています。

評価指標

評価指標	現状値	目標 (2030 年度)
環境配慮行動を行った市民の割合	58% (2018 年度)	90%
つくば市主催・共催の環境啓発事業参加者数	225 人 (2018 年度)	1,000 人
環境スタイルサポーターズ事業所会員のうち取組に参加した事業所数	5 事業所等 (2018 年度)	70 事業所等

持続可能なライフスタイルの推進

施策

- 市民の環境リテラシー※を高めるため、大人向けの普及啓発活動を推進します。
- 日々の暮らしを持続可能なライフスタイルへと転換するサポートを行います。また、地域の環境教育や環境保全活動に自ら取り組むリーダーが増えるよう支援を行います。 **重点施策3**
- 環境にやさしい生活の方法・工夫などを情報提供・共有し、持続可能なライフスタイルを実践する市民を増やします。

※環境リテラシー：環境に関わる資質や責任感、能力や知識・技能を示す概念



将来を担う子どもたちへの環境教育

施策

- つくばスタイル科※を推進することで、子どもたちが環境や持続可能性などを大切にできる態度を身につけます。
- 学校での地産地消を推進します。また、地産地消や農業への関心を高めるため、生産者と子どもたちが直接交流する機会を設けます。
- 学校外においても、子どもたちの環境教育を推進します。

※つくばスタイル科：つくば市独自の次世代環境教育カリキュラム

環境と経済の好循環

施策

- 環境技術の実証実験に積極的に協力し、まちなかへの環境技術の実装を進めるとともに、環境ビジネスモデルの構築に貢献します。
- グリーン購入を推進することで、環境に配慮した事業者の支援を行います。
- 地産地消を促進することにより、地場産業の発展に貢献するとともに、温室効果ガスの排出量抑制や農地の維持を図ります。

重点施策

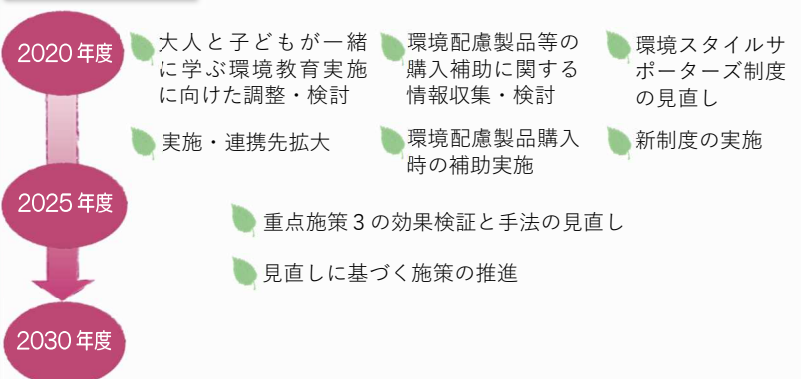
3 持続可能なライフスタイルの推進

内容

市民や事業者がより主体的に環境への関心を高め、日々の暮らしを持続可能なライフスタイルへと転換するサポートを推進します。

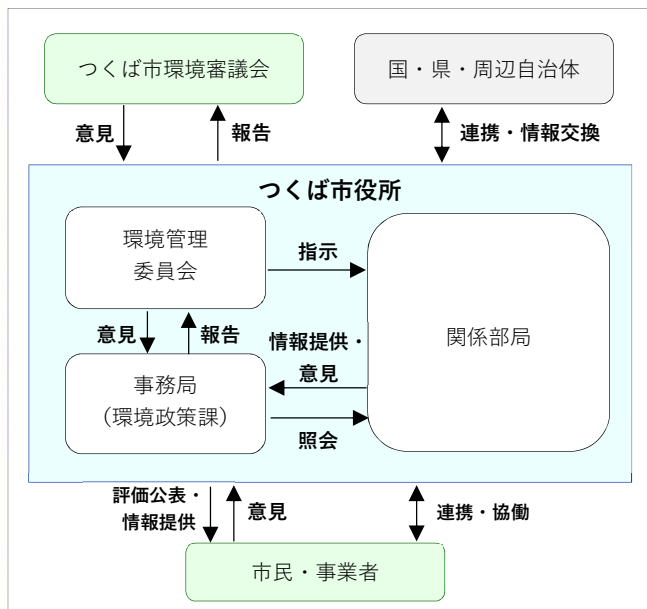
具体的には、大人と子どもと一緒に持続可能なライフスタイルについて学べる機会の提供や、優れた環境配慮製品などを購入する際の補助を行います。また、環境にやさしい生活の方法や工夫などについて情報提供を行うとともに、市民の主体的取組を推進につながるように環境スタイルサポーターズを見直します。

ロードマップ



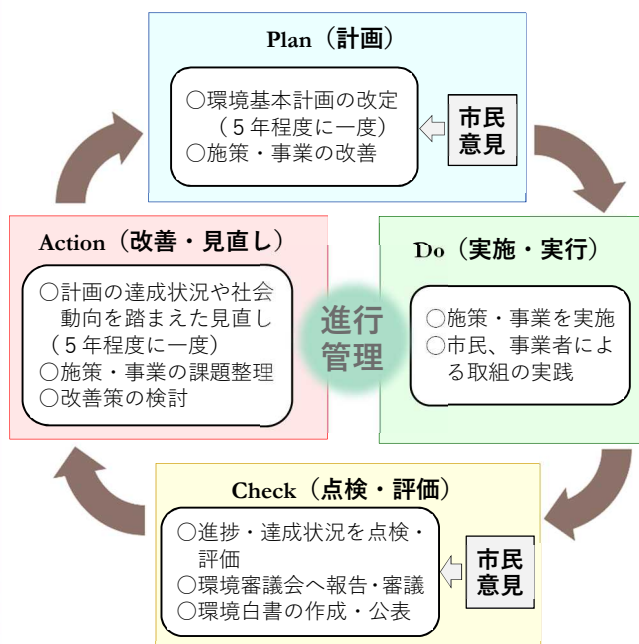
環境基本計画の進行管理体制

本計画を実効性あるものとしていくため、計画の進行管理を行います。計画の進行管理は、次のような体制で進めます。



進行管理の考え方

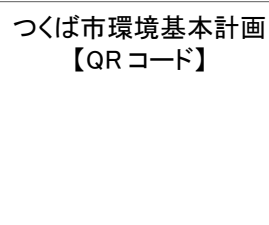
本計画の施策を着実に実施し、その進捗状況等を点検・評価します。さらに、評価結果を次年度へとフィードバックして施策を改善していくことで本計画の実効性を高めます。



環境基本計画（本編）及び環境白書

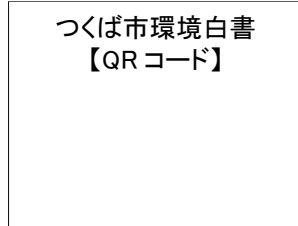
- 第3次つくば市環境基本計画についてもっと知りたい方は、つくば市ホームページより本編をご覧ください。

URL: https://www.city.tsukuba.lg.jp/*****



- つくば市の環境についてもっと知りたい方は、つくば市ホームページに掲載されている「つくば市環境白書」をご覧ください。

URL: <https://www.city.tsukuba.lg.jp/shisei/torikumi/kankyo/1001923.html>



第3次つくば市環境基本計画【概要版】

令和2年（2020年）4月

編集・発行 つくば市 生活環境部 環境政策課 計画管理係

〒305-8555 茨城県つくば市研究学園一丁目1番地1

TEL：029-883-1111（代表）



つくば市は持続可能な開発目標（SDGs）に取り組んでいます。

この冊子は、グリーン購入法に適合した印刷物を使用しています。